

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成26年6月16日
タイトル	ぼくたち、わたしたちの給食米を植えたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成26年6月6日（金）福山市立東村小学校全児童43名と福山市立東村保育所の子ども達18名が、福山市東村町のほ場で農業体験をしました。

学校給食食材納入グループ「若草会」の学校農園約20aのほ場で、給食で食べるお米の田植えをしました。

まず、水土里ネット福山の組合員のかいの あきのり廻野明倫さんから挨拶があり、つぎに組合員のすぎはらなおみち杉原直道さんから雨が降っているのは「田植え日和」であること、昔は蓑と笠で田植えをしていたことなど説明され、実際に代表して子どもに着てもらいました。

水土里ネット福山から、今回の田植え体験をきっかけに農業用水に関心をもってもらい、豪雨などの災害時や日頃の生活のなかで、ため池や水路に対する防災意識を高めてもらおうと、子ども達に農業用水路の防災について話し、福山市上下水道局の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」を配布しました。



蓑と笠を着てみたよ！



全員で田んぼへ 気持ちいい！！

廻野さんから苗の持ち方など田植えの方法を教してもらい、いよいよ田植えです。子ども達は、全員が一列に並んで田んぼへ入ります。田んぼに入った子ども達は歓声をあげながら、とても楽しそうに植え付け始めました。高学年の子どもは、もう何度も田植えを経験しているので、上手に植え付けていました。低学年や保育所の子どもたちは、最初は慣れない手つきでしたが、地域の方に教えていただき、徐々に上手になっていきました。

田んぼの4分の1ほど植えたところで、地域の方が、「そろそろ終わりに」と言われると、一斉に「まだやりたーい」と声があがり、少し時間を延長して田植えをしました。





まだ植えたいよ！



かっこいい！！

子ども達の田植えが終わると、廻野さんが田植え機で颯爽と田植えをしてみせてくださいました。子ども達は、かっこいい田植え機に興味津々で、「新幹線みたいな田植え機じゃ」と喜んで見学していました。

若草会の皆さんは、田植えのためにおにぎりや柏餅を用意してくださったり、一緒に田んぼへ入って田植えを手伝ったり、とても生き生きとしておられました。

田畑だけでなく、法面に芝さくらを植え、草ぬきなども当番を決めて手入れしておられるようです。

また、畑のトマトなど手入れをしている方に「雨の日は芽を摘んではだめよ」などと他の会員から声がかかり、「今日は一つ勉強になったのう」と言われ、和気あいあいとしておられました。農業塾のような役割にもなっていると感じました。

ここ東村町は、平成3年から平成5年にかけて水土里ネット福山が、ほ場整備事業を施行した地域になります。ほ場整備を契機に地元農家を中心とした若草会と小学校・保育所が連携した給食米の取り組みは、地産地消の実践として最たるものではないかと思えます。

今後も水土里ネット福山として、このような取り組みに協力していきたいと思えます。